トドマツオオアブラムシ

トドマツ幼木の幹や枝につくアブラムシ．最大長約3mm．体は緑色または黒色．幹や枝が土や木くずで覆われ，その下にアブラムシとアリが共生している．
トドマツを造林すれば道内どこでも発生するといわれる．しばしば多発し，木を枯らすこともある．

1．寄生状況．1982/10．早来町，トドマツ．

【学名】 *Cinara todocola*
【分類】 カメムシ目（Hemiptera），アブラムシ科（Aphididae）
【分布】 北海道，本州；サハリン．

【特徴】
トドマツの幹や枝には他にトドミドリオオアブラムシ，ハネナガオオアブラムシ，ハットリオオアブラムシが寄生する．トドミドリオオアブラムシの成虫は体長2mm強と小さい．ハットリオオアブラムシとハネナガオオアブラムシの成虫は体長がそれぞれ5mm，6mmと大きい．また，これら３種では加害部位が土で覆われることはないようである．

【生態】
宿主：モミ属（トドマツなど）．
卵越冬．春早く孵化し，秋まで幼木の幹や枝で吸汁加害し，世代を繰り返す．年５～６世代．
トビイロケアリなどのアリ類が共生する．アリ類は土などでアブラムシの隠れ家（土莢＝どきょう）を作って保護する．

発育ステージ	～３月	4	5	6	7	8	9	１０	１１～
卵（越冬）	＋＋＋	＋＋＋	‥					‥＋	＋＋＋
幼虫・成虫（加害）			‥■■	■■■	■■■	■■■	■■■	■■■	‥

【被害と防除】

トドマツを造林すると２～３年の内に侵入・定着し，被害は樹高が2m前後になるまで続く.

トドマツを造林すればどこでも被害が発生するといわれ，被害木が枯れることも多い.

造林地で駆除が必要と判断される場合はトドマツのアブラムシ用の農薬を用いる．農薬は取扱説明書に従って使用すること.

【文献】

1936．Inouye，M．Two new species of Aphididae from Hokkaido．Insecta Matsumurana，10：128-134．（原記載，形態の記述）

1956．井上元則．北海道・東北地方の針葉樹に寄生するアブラムシ．林業試験場北海道支場業務報告，特別報告，5：204-238.（形態，生態，針葉樹の他のアブラムシについても解説）

1969．Inouye，M．Revision of the conifer aphid fauna of Japan (Homoptera, Lachnidae)．林業試験場研究報告，228：57-102．（形態的特徴の追加，生活史の概要，針葉樹の他のアブラムシについても解説）

1977．横田俊一，坂上幸雄，山口博昭，魚住正，樋口輔三郎．北海道の森林保護．北方林業叢書，56：1-158．北方林業会，札幌．（被害と防除の解説）

1985．農林水産省林業試験場北海道支場保護部．北海道樹木病害虫獣図鑑．223 pp．北方林業会，札幌．（生態，被害，カラー写真）.

1994．小林富士雄，竹谷昭彦，編．森林昆虫，総論・各論．養賢堂，東京．（形態，生態，被害，防除の解説）

北海道立林業試験場・緑化樹センター

トドマツオオアブラムシ abura/todooo/
kaisetu.htm
「文章」 原秀穂，北海道立林業試験場，2001/2/7.
higai.JPG
「写真１」 鈴木重孝，北海道立林業試験場，1982.